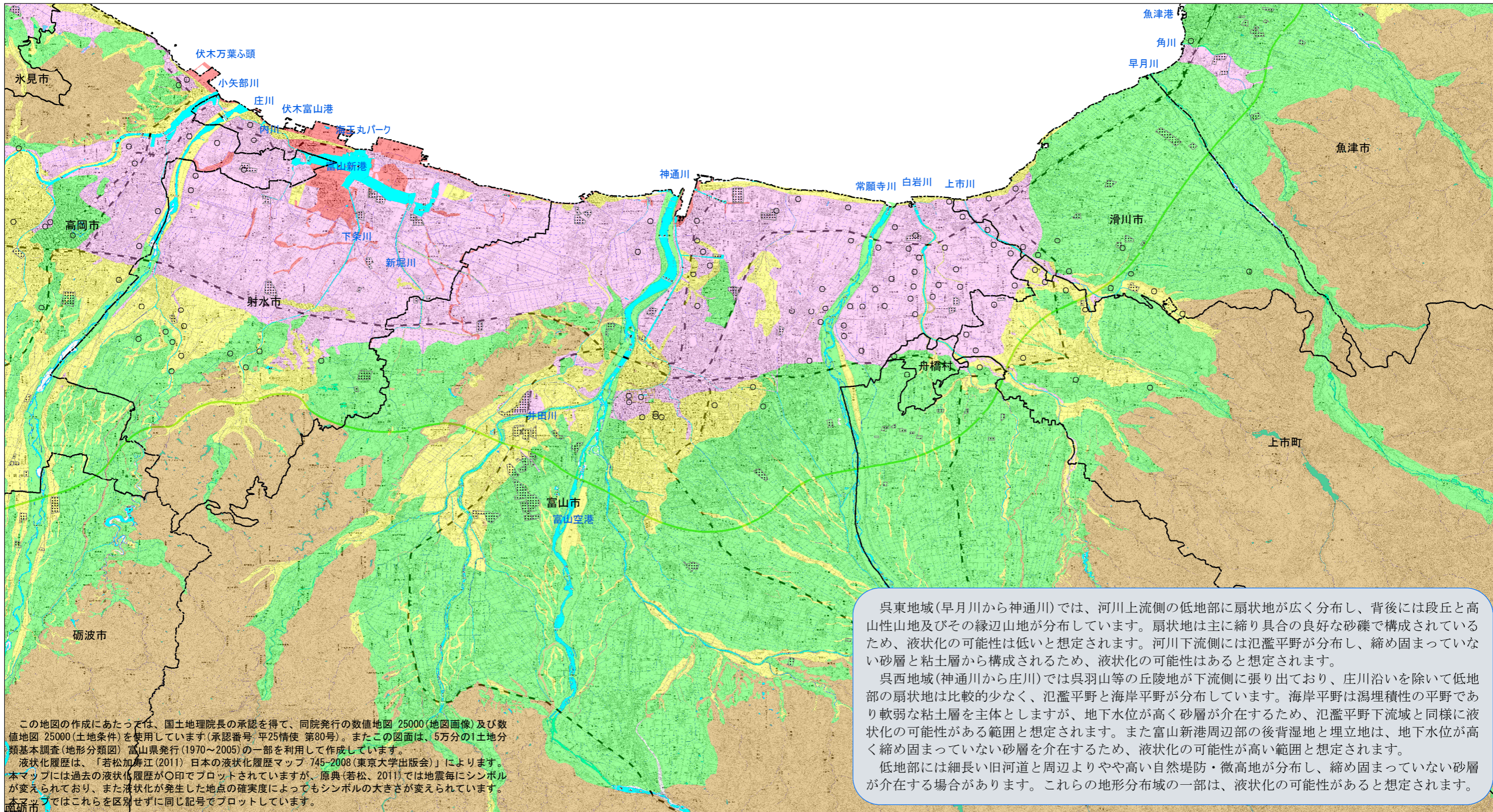
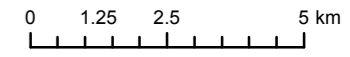
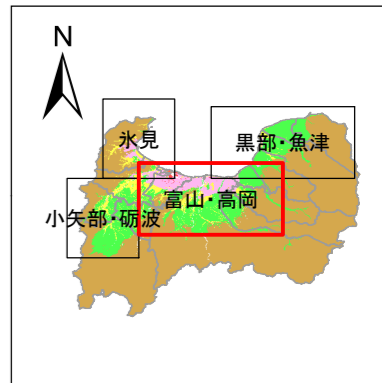
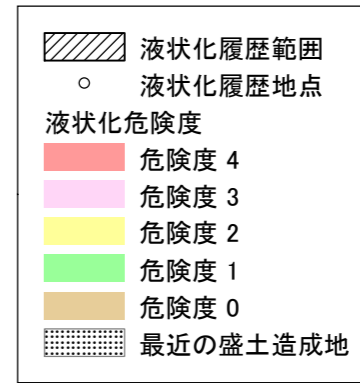


# 富山・高岡地域

## 液状化しやすさマップ



呉東地域(早月川から神通川)では、河川上流側の低地部に扇状地が広く分布し、背後には段丘と高山性山地及びその縁辺山地が分布しています。扇状地は主に締め具合の良い砂礫で構成されているため、液状化の可能性は低いと想定されます。河川下流側には氾濫平野が分布し、締め固まっていない砂層と粘土層から構成されるため、液状化の可能性はあると想定されます。

呉西地域(神通川から庄川)では呉羽山等の丘陵地が下流側に張り出ており、庄川沿いを除いて低地部の扇状地は比較的少なく、氾濫平野と海岸平野が分布しています。海岸平野は埋積性の平野であり軟弱な粘土層を主体としますが、地下水位が高く砂層が介在するため、氾濫平野下流域と同様に液状化の可能性のある範囲と想定されます。また富山新港周辺部の後背湿地と埋立地は、地下水位が高く締め固まっていない砂層を介在するため、液状化の可能性が高い範囲と想定されます。

低地部には細長い旧河道と周辺よりやや高い自然堤防・微高地が分布し、締め固まっていない砂層が介在する場合があります。これらの地形分布域の一部は、液状化の可能性があると想定されます。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図) 富山県発行(1970~2005)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011) 日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変更されており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変更されています。本マップではこれらを区別せず同じ記号でプロットしています。